

最近相談のあった園芸に関する質問等について記載いたします。

Q：良質堆肥の見分け方。

A：堆肥に関してはかなり難しい問題ですが以下のことを参考にしてください。

堆肥の判定：堆肥の腐熟度見分けは見た目では困難です。そもそも、「腐熟」という言葉からも察しがつくとおり、「熟する」という言葉と「腐る」という正反対の言葉で表されること自体、この言葉の意味を難しくしています。考える**良い堆肥のイメージは、堆肥の材料が「腐る」前に微生物によって分解が進むことが前提で、この点から考えると生ごみなど腐りやすい材料を使用する場合は管理が難しくなります。実際、生ごみを主体にした場合、悪臭の発生、ヘドロ化とウジの発生、褐色の汁が滲み出すなどさわることをすら嫌がられます。良質堆肥に仕上げるには生ごみなど水分の多い材料の割合を少なくし、稲ワラなど水分が低く、ゆっくり分解する材料を多めに使用することです。良い堆肥はまず、刺激臭や嫌な臭いはしないものです。また、醗酵に伴う熱が治まっており、堆肥を手に取り、指先で揉んだときもとの材料の形が残らない状態になればなりません。未熟堆肥をプランターや圃場に散布しカビだらけになったという笑えない話も少なくありません。**

堆肥の使い方：そうした意味で、本県で流通する多くの堆肥は未熟状態にあります。このような堆肥を土作りとして、大量に投入しますと野菜に生育障害が発生しやすくなります。では、堆肥を入れるのが危険として、入れないほうが良いかと言うと、圃場の「土性」の改善という観点からは、堆肥は入れてゆかなければなりません。

入手可能な「堆肥」の実用的な使い方としては、自前の堆肥作りとして、**入手した堆肥に、自前の堆肥材料と合わせて再度積み込み半年ほど寝かせてから圃場に入れるようにすることがベストです。少なくとも、圃場を使用する前に大根の種子などで発芽検定することも必要です。**

右の写真ですが、左側はハウス土壌ですが、右側は投入予定のモミガラ牛糞堆肥です。播種

後 5 日経過していますが、堆肥に播種した方は殆ど発芽していません。

年が明けて雪が溶けてくると、ジャガイモの準備が始まりますが、一般的なことを言うと、ジャガイモ作の直前に堆肥を入れることは、肌が返って荒れたり、虫害を受けたりなどマイナス面の方が多いと考えてください。**未熟な堆肥はイモや大根など土の中でできる作物の作付け直前にはやらないほうが無難です。**



Q：降雪によるハウスの倒壊防止に有効な対策は。

A：ハウスの雪害対策については、県からいろいろ資料がでているので、十分ご存知のことと思いますが、やはり一番有効な手段はつっかえ棒（支柱）を3～5mおきに設置することです。県などの資料ではあまり言及されていませんが、重要なことは、支柱の上端と下端を固定することです。下端は杭などを打って固定します。何故かという、吹雪になった場合、ハウスは風力により浮き上がる瞬間があり、この時に支柱が外れたり、下端がずれたりして役立たなくなってしまうのを防ぐためです。

また、**ハウス内に家庭用のストーブを入れておき、降雪時には点火しておきます。**無暖房のハウスでは、ハウス内がマイナスの温度になると、屋根の雪が凍りつき、急速に積もってしまいます。ストーブをつけておくと、天井部は2～3を保つことができ、凍結を防ぐことができます。そうすることにより、屋根の上に降る雪が屋根のビニール面で溶け自然と滑落します。家庭用のストーブ設置の目安は小型の反射式のもので約15mに一台程度です。これらの努力が無になるケースは、ハウスサイドの除雪を怠り、滑り落ちた雪で一杯になり、ハウスの肩部以上まで雪が重なってしまうとハウスの屋根部分に急速に負荷がかかり倒壊につながります。**ハウスサイドの除雪は徹底してください。**

融雪装置が敷設してある場合は、降り始めから散水しておくことが重要です。ある程度雪が溜まってしまうと、散水しても水のアたる部分がトンネル状になり、降り積もる雪を溶かしきることができなくなる恐れがあります。

窓口対応の農力アップメモ

種子の保存・・・

秋野菜の収穫もほぼ終わりとなっていますが、蒔き残しの種はどうしていますか？目方からすると種によっては「金」より高いものがあります。殆どの種は「銀」の価格より高いと思ってください。ですから種は有効に利用しましょう。一般に種子は低温ほど長持ちします。種の種類にもよりますが、ベストの管理をすれば数百年発芽力を維持するといわれています。2000年以上土中にあったハスの種子が発芽した話は有名で、現在「縄文ハス」として栽培されています。県内でも栽培されている方がおられます。

では、一般家庭ではどのように管理したらよいかといえますと、**お菓子などに入っている乾燥剤と種子を同封し冷凍庫に入れるのがベストです。**ただし、冷凍庫へ入れる場合は種子が十分乾いている必要がありますので、乾燥剤と同封、密封のうえ4～5日冷蔵庫で保管してから冷凍庫に移すのが良いでしょう。また、-20より低くなる高性能の冷凍庫は避けてください。こうすると10年以上は発芽力を維持できます。**2～3年以内で使いきれ程度の量なら冷蔵庫で十分です。発芽力を維持するポイントは低湿、低温です。**

入れ物は密封できる茶筒、薬ビン、ペットボトル、フィルム容器、野菜の冷凍保存袋など種子の量にあわせて選んでください。保存した年月日も記入しましょう。

